

GRIガイドライン対照表

環境年次レポートでは、GRIガイドラインの標準開示項目と環境パフォーマンス指標についての対照表を作成しています。

プロフィール			対象ページ
1 戦略および分析	1.1	組織にとっての持続可能性の適合性とその戦略に関する組織の最高意思決定者の声明	2-3, 35
	1.2	主要な影響、リスクおよび機会の説明	5-13, 36-39
2 組織の プロフィール	2.1	組織の名称	C4
	2.2	主要なブランド、製品および/またはサービス	C3-C4
	2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	C3, 1, 14, 40
	2.4	組織の本社所在地	C4
	2.5	組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っているあるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	C3-C4, OH
	2.6	所有形態の性質および法的形式	C4, OH
	2.7	参入市場	C3-C4, OH
	2.8	報告組織の規模	C3-C4
	2.9	規模・構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	OH
	2.10	報告期間中の受賞歴	26-31
3 報告要素	3.1	提供する情報の報告期間	1
	3.2	前回の報告書の発行日	1
	3.3	報告サイクル	C2
	3.4	報告書またはその内容に関する質問の窓口	C7
	3.5	報告書の内容を確定するためのプロセス	C2, 14, 40
	3.6	報告書のバウンダリー	1
	3.7	報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項	1
	3.8	共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび/または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	1, 18, 44
	3.9	報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含むデータ測定技法および計算の基盤	1, 18-19, 44-45
	3.10	以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明およびそのような再記述を行う理由	18-19, 44-45
	3.11	報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	C2, 1
	3.12	報告書内の標準開示の所在場所を示す表	C5-C6
	3.13	報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行	88
4 ガバナンス、 コミットメント および参画	4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造	14, 40, OH
	4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す	2-3, 35, OH
	4.3	単一理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび/または非執行メンバーの人数を明記	OH
	4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	OH
	4.5	最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬と組織のパフォーマンス(社会的および環境的パフォーマンスを含む)との関係	OH
	4.6	最高統治機関が利害相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	OH
	4.7	経済、環境、社会的テーマに関する組織の戦略を導くための、最高統治機関のメンバーの適正および専門性を決定するためのプロセス	OH
	4.8	経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッションおよびバリューについての声明、行動規範および原則。	4, 8-9, 32
	4.9	組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス	14
	4.10	最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	14
	4.11	組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうかおよびその方法はどのようなものかについての説明	4, 14, 40
	4.12	外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が合意または受諾するその他イニシアティブ	1, 12, 20-21
	4.13	組織がある団体および/または国内外の提言機関における会員資格	C4
	4.14	組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	9
	4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	5-6, 36-37, OH
	4.16	種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	5-6, 36-37, OH
	4.17	その報告を通じた場合も含め、ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要なテーマおよび懸念事項と、それらに対して組織がどのように対応したか	C2, 5-6, 36-37

環境(EN指標)			対象ページ	
		マネジメント・アプローチ	4-13, 36-43	
原材料	EN.1	使用原材料の重量または量	60	
	EN.2	リサイクル由来の使用原材料の割合	—	
エネルギー	EN.3	一次エネルギー源ごとの直接的エネルギー消費量	18, 44	
	EN.4	一次エネルギー源ごとの間接的エネルギー消費量	18, 44	
	EN.5	省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	7, 27, 30, 38, 46-47, 57-70, 76-82	
	EN.6	エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスを提供するための率先取り組みおよび、これらの率先取り組みの成果としてのエネルギー必要量の削減量	7, 20-25, 48-56	
	EN.7	間接的エネルギー消費量削減のための率先取り組みと達成された削減量	7, 27, 30, 38, 46-47, 57-70, 76-82	
	水	EN.8	水源からの総取水量	19, 45
		EN.9	取水によって著しい影響を受ける水源	EN-Web
EN.10		水のリサイクルおよび再利用が総使用水量に占める割合	—	
生物多様性	EN.11	保護地域内あるいはそれに隣接した場所および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域に、所有、賃借、または管理している土地の所在地および面積	—	
	EN.12	保護地域及び保護地域外で生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明	32-33	
	EN.13	保護または復元されている生息地	26, 32-33, 85	
	EN.14	生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画	13, 32, 39	
	EN.15	事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するICUN(国際自然保護連合)のレッドリスト種(絶滅危惧種)および国の絶滅危惧種リストの数	—	
排出物、廃水および廃棄物	EN.16	重量で表記する、直接および間接的な温室効果ガスの総排出量	18, 44	
	EN.17	重量で表記する、その他の関連ある間接的な温室効果ガス排出量(≒Scope3)	65	
	EN.18	温室効果ガス排出量削減のための率先取り組みと達成された削減量	7, 27, 30, 38, 46-47, 57-70, 76-82	
	EN.19	重量で表記する、オゾン層破壊物質の排出量	EN-Web	
	EN.20	種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	—	
	EN.21	水質および放出先ごとの総排水量	45, EN-Web	
	EN.22	種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	19, 45	
	EN.23	著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	42	
	EN.24	パーゼル条約付属文書I、II、IIIおよびIVの下で有害とされる廃棄物の輸送、輸入、輸出あるいは処理の重量および国際輸送された廃棄物の割合	—	
	EN.25	報告組織の廃水および流出液によって著しい影響を受ける水界の場所およびそれに関連する生息地の規模、保護状況および生物多様性の価値を特定する	—	
製品およびサービス	EN.26	製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取り組みと、影響削減の程度	5-13, 20-25, 48-56	
	EN.27	カテゴリー別の、再生利用される販売製品およびその梱包材の割合	27, 67, 71-75, 82	
遵守	EN.28	環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	41-42	
輸送	EN.29	組織の業務に使用される製品、その他物品および原材料のおよび従業員の移動からもたらされる環境影響	13, 38, 46-47, 64-67,	
総合	EN.30	種類別の環境保護目的の総支出および投資	43	

OH……………アニュアルレポート・有価証券報告書・CSRウェブサイト等をご覧ください。
(C2の「その他主な情報公開について」を参照)

EN-Web……Honda環境ウェブをご覧ください。

(【URL】 <http://www.honda.co.jp/environment>)



各領域責任者

営業領域	四輪.....	加藤 成昭
		清水 保匡
	二輪.....	井内 正晴
	汎用.....	渡邊 隆興
	サービス・部品.....	貝原 典也
購買領域	環境・リサイクル推進室	小林 秀明
	菅沼 章文
事業所領域	事業所環境総合責任者	
	埼玉製作所	森本 千博
	栃木製作所	青波 宏一
	浜松製作所	松村 正道
	鈴鹿製作所	味岡 正臣
	熊本製作所	深井 孝良
	四輪新機種センター	吉原 浩行
	品質改革センター栃木	苅谷 幸広

本社	青木 高夫
	(株)本田技術研究所	
	四輪R&Dセンター (和光) /	
	基礎技術研究センター /	
	航空機エンジンR&Dセンター	矢ヶ崎昭夫
	二輪R&Dセンター / 汎用R&Dセンター	中村 文彦
	四輪R&Dセンター (栃木)	築田 准
	鷹栖ブルーピンググラウンド	河合 浩二
	ホンダエンジニアリング(株).....	桜井 倍博
	製品およびKD部品	中井 俊英
物流領域		
管理領域	総務	青木 高夫
	人事	筒井 哲也
	広報	長井 昌也
	知的財産	川村裕一郎

注) 2011年6月1日現在

Hondaグローバル環境シンボルについて



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

Honda環境ビジョンにもとづき、「自由な移動の喜びを次世代(for our children)に伝えていきたい。だからこそ、豊かで持続可能な社会(blue skies)を実現させたい。」という想いを象徴させ、この環境スローガンとシンボルを活用していきます。

お問い合わせ

- 内容に対するお問い合わせ先
経営企画部 環境安全企画室
Tel.03-5412-1155 / Fax.03-5412-1154
- 本レポートのお申し込み先
お客様相談センター Tel.0120-112010
(受付時間：9時～12時 / 13時～17時)

本レポートは「Honda環境ウェブ」でもご覧になれます。また、PDF形式のファイルで本レポートの他にも『取り組み事例と補足情報』を公開しております。下記、URLにてダウンロード可能となっておりますので、是非ご覧下さい。

<http://www.honda.co.jp/environmental-report/>
なお、本レポートの更新情報は上記のウェブサイトで確認できます。



環境年次レポート編集委員

本田技研工業(株)

有馬 雄一、井口 悟、池田 雅敏、岩崎 泰嗣、
岩淵えみ子、恩田 貴之、加賀山豊彦、鹿野 隆二、
川崎 哲、国広 信幸、小西 英治、小林 幸子、
白川 和雄、中西 英夫、浪花 誠、橋本 淳、
原田 将弘、平手 秀樹、平山 直子、森 恵美、
守田 浩介、山田 和幸、横山 京子

(株)本田技術研究所

井上 勉、今泉 秀俊、宇崎 秀男、香西 英輔、
菊池 準二、沓掛 充宏、杉本 康弘、田代 春美、
山野 滋

ホンダエンジニアリング(株)

土元 裕一

(株)ホンダアクセス

高橋 徳夫、後藤 恭規

(株)ホンダモーターサイクルジャパン

藤原 宏文

制作

(株)志庵

印刷

(株)久栄社

発行	経営企画部 環境安全企画室
発行責任者	篠原 道雄
編集者	加藤 久、君嶋 文江、川崎 俊介

HONDA

The Power of Dreams



本田技研工業株式会社

〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

発行2011年6月

VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物油のインクおよびFSC™認証紙を使用し、印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

©(K)®70001107